

## 「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をととして、常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、効率的で自立した病院経営を推進します。



あわら病院と北潟湖と桜

## 2023年度を迎えて

さまざまな社会および個人活動の制限が徐々に緩和される中、今年度も桜の開花とともに新しい年度がスタートしました。さてまずはここに改めて残念ながら新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げるとともに、罹患されたすべての皆様に対し一日も早いご回復をお祈り申し上げます。

当院は、障害児(者)医療、長寿医療、血液・リウマチ医療を政策医療に掲げるとともに、「Hospital in the home, Home in the hospital」をテーマに地域密着型医療体制を築き上げることを目標とし日々精進しております。社会がどのように変わっていくとも、地域から求められていることは何かを常に考えながら、より安全で良質な医療と介護を提供できるように職員ひとりひとりの力を結集して、来るべき時代の要請に当院の役割を十分果たしていきたいと願っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



院長  
見附 保彦

## 感染症

内科医師 伊藤 和広

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、県内では今年の1月5日が1日の感染者のピーク(1819人)でしたが、それ以降減少しており、3月以降では100人未満となっています。しかし、一方でインフルエンザの発生状況は今年第8週目で定点あたり33.16人と全国第2位(前週は第1位)の多さとなっており、県の同時期の過去10年間の平均より高い水準となっています。実は、昨年夏の時点で南半球のオーストラリアで過去2年間流行のなかったインフルエンザが流行したことから予想されていた事態です。インフルエンザの流行はここ2年間で社会全体の集団免疫が低下したことも一

因かもしれません。このような事態を考えると個人レベルの感染対策ではどうしようもないと感じるかもしれませんが、どのような感染症であれ感染予防が基本となります。3月13日からはマスク着用は個人の判断となります。COVID-19も5月から5類感染症となり、今後感染症対策を個人がどのように行っていくのかが問われることとなります。しかし、感染対策の基本は変わりません。これまでの経験を活かしつつ、患者さんに安心安全な医療を提供してまいります。



## 地域総合診療在宅移行支援

総合診療科科長 鈴木 友輔

全人口に65歳以上の高齢者人口が占める割合は上昇し続けており、2025年には30%となると見込まれております。このような状況の中で国民の医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれており、2025年を目途に地域包括ケアシステムの構築が推進されています。

ケアシステムの枠組みの中では要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けることができるような体制が必要であり、入院診療だけでなく訪問診療や訪問看護の実施などにより坂井地区在宅システム情報共有システムを積極的に利用し、外来・入院・在宅、そして看取りまでのあらゆる段階での医療を継続できるようにしています。

当院では「Hospital in the home , Home in the hospital」の概念のもと、在宅での医療が入院医療レベルになるように、あるいは入院での生活が在宅生活のレベルになるように、医療の充実を図ってきました。地域包括



今後もオンライン診療の充実などの体制の整備とともにその中で活躍できるような人材育成を行い、当地域での地域医療に貢献できるように力を注いでいきます。

## 当院のコミュニケーションツール紹介 — 意思伝達装置編 —

作業療法士 小林 純也

当院には、手を動かしたり声を出せない頸髄損傷患者さんや神経難病患者さんが入院されています。そんな患者さんが病院職員との意思疎通や家族、友人と連絡、趣味を楽しめるよう、リハビリ科では、日々新しい機器の情報を取り入れ、意思伝達装置や入力スイッチの検討をしています。

インストールし、入力スイッチを使って操作できるよう残存機能を活かした支援を行っています。

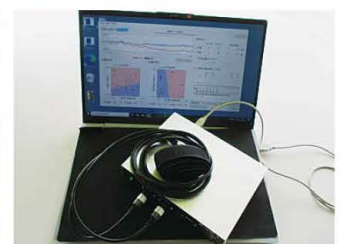
患者さんの目的に合わせ、パソコンが苦手という患者さんでも文章入力が簡単に行える「レッツ・チャット®」、意思疎通に加え、PCと同様の活動を行うことが出来る「TCスキャン®」、脳血流を用いてYes、Noを伝える「新心語り®」等々の意思伝達装置を揃えています。

今回は意思伝達装置の操作をする為に重要な入力スイッチの紹介をします。

意思疎通だけでなくYouTubeやネットショッピングなども楽しみたいという患者さんには意思伝達装置にアプリを



意思疎通やアプリを操作できる機器



脳血流量の変化で Yes、Noを判別する機器

## 地域医療連携施設のご紹介

あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

### こしの医院

当院は内科全般をはじめとしてなんでも相談できる近所のかかりつけ医を目指しています。0歳児から小児の診察も実施しています。現在は高血圧、糖尿病、高脂血症などいわゆる「生活習慣病」を中心に診療していますが、内科以外のことでもとりあえず相談にのるようしており、専門的な診療が必要と判断したら、しかるべき専門医に紹介しています。時間外、休日でも可能な限り診療していますし、少なくとも電話対応は24時間実施しています。最近では患者さんの高齢化に伴って往診、訪問診療の依頼も増えていま

す。特に基幹病院からの高齢寝たきりの患者さんやがん末期で在宅看取りの患者さんなどの訪問診療の依頼が増えてきており、坂井地区医師会在宅ケアネットと協力し、各訪問看護ステーションとも連携し、可能な限り受け入れています。あわら病院とは訪問看護ステーションとの連携や在宅患者さんの急変時の対応、レスパイト入院の依頼などで御協力していただいております。今後とも連携をよろしくお願い申し上げます。

院長 越野 雄祐



#### こしの医院

〒913-0032 福井県坂井市三国町山岸69-36-3

TEL (0776) 81-6655

ホームページ <https://www.koshino-iin.com/>

### 地域医療連携室便り

あわら病院では年間200名以上の患者さんに入退院支援を実施しています。ケアを継続しながら在宅での生活を希望される方や自宅や慣れ親しんだ施設での最期の時間を過ごしたいと希望される方と退院支援看護師がご入院時より面談を実施し、退院先やサービス調整などの相談にのっています。そして安心して退院を迎えていただけるよう院内・地域の医療・介護関係者、多職種を交えカンファレンスを積極的に実施しています。ケアの継続を患者さん・ご家族に実感していただだけ、安心で安全な退院に繋がります。

更に昨年度より地域医療連携室の新たな取り組みとして

#### 地域医療連携室 退院支援看護師 福嶋 志保子

オンラインによるカンファレンスの実施を開始しました。対面式カンファレンスに一部オンラインを組み込むことにより患者さんのかかりつけの先生や、感染対策中の施設職員の方もより多く参加していただくことができ、退院後の療養生活をスムーズにスタートできていると感じています。コロナ禍で変化する状況に対応しながら患者さんやご家族の笑顔の為に地域の皆さんと引き続き支援活動してまいります。



## 外来担当医表

(令和5年4月3日現在)

診療科		月	火	水	木	金
総合	内科	見附 保彦	見附 保彦	大槻 希美	鈴木 友輔 <sup>(第1・2・3・5)</sup> 見附 保彦 <sup>(第4)</sup>	野村 量平 <sup>(第1・3・5)</sup> 辻 俊比古 <sup>(第2・4)</sup>
	小児科	川満 徹*	川満 徹*	川満 徹*	湯浅 光織 <sup>(第1・3・5)*</sup> 福岡 諒 <sup>(第2・4)*</sup>	川満 徹*
専門	リウマチ		津谷 寛		津谷 寛	
	血液・腫瘍			浦崎 芳正*		大槻 希美 <sup>(第2・4)</sup>
	生活習慣病			鈴木 友輔 <sup>(第2・4)</sup>		伊藤 和広
	老年					栗田 敦 <sup>(第1・3・5)</sup>
	神経			佐々木宏仁 <sup>(第1・3・5)</sup>		
	循環器			見附 保彦	見附 保彦	
	外科	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢
	整形外科	伊與部 貴大				
	眼科				吉岡 達也*	
	皮膚科		若原 真美*			
	地域ケア	鈴木 友輔*				
禁煙外来	見附 保彦					

● 受付時間(午前診療)8:40~11:30 ● 黄色枠は予約制 ● \*印は午後診察 ● 休診日/土・日・祝日・年末年始

※皮膚科の診察は、火曜日の13:00~15:00(受付時間14:30まで)です。

※神経内科の診察は、第1・3・5水曜日(受付時間8:40~11:30)です。

※最新の医療体制についてはあわら病院ブログ「診療体制の最新情報」をご覧ください。



### 栄養管理室便り

栄養管理室 主任栄養士 谷口 恵美

栄養情報提供書は、管理栄養士(栄養士)が配置されている病院や施設で、療養している方が在宅等にいられても病状にあった食事ができるように、食生活支援担当者にわかりやすく伝えるための栄養ケア情報です。栄養情報提供書を作成することで、患者さんの栄養管理を共有し適切な食生活支援を行うことが出来ます。施設間移動や在宅復帰の際にも、栄養情報提供書に基づいた適切な栄養ケアが提供できるため、シームレスな栄養管理を地域単位で行うことにつながり、結果として患者さんの健康維持にも貢献することになります。



当院も2022年1月より少しずつですが栄養情報提供書の作成を行っております。全員に作成するには至りませんが、栄養ケア情報を必要とする患者さんに向けて発信を続けていきます。当院へ転院して来られる患者さんの栄養ケア情報も是非共有をお願いします。

### X線TV装置が新しくなりました

診療放射線技師長 西村 和英

当院では2022年3月に更新された最新型全身用64列CT装置の導入に続き、9月にはX線TV装置が更新されました。装置の特長として従来に比べ操作性に優れ、更に低被ばくで高画質な画像情報が得られるようになりX線透視時の視認性も向上しました。検査室も工事が施されてきれいになり空気清浄機を整備し清潔で快適な空間となっています。

装置の利用としては主に点滴や静脈注射を行うためのCVカテーテルの留置や経鼻胃管の栄養チューブ挿入、交換などの処置をはじめ、県や企業検診の胃がん検診としてバリウム胃透視も行っています。またCTでは大腸CT検査も実施しています。この検査では腸内に炭酸ガスを注入し大腸を十分に膨らませてから撮影を行い、得られたCT画像から大腸の3次元画像を作成し、大腸の全体像や仮想内視鏡画像の形態的変化の情報から画像診断を行います。

病気の早期発見、早期治療の重要性が増す中、検査の受診率の向上のため診療における検査や検診において各装置を有効にご活用いただければと思います。



独立行政法人  
**国立病院機構 あわら病院**

福井県あわら市北湯238-1  
TEL.0776-79-1211(代表) FAX.0776-79-1249  
(地域医療連携室) FAX.0776-79-1261  
URL <http://www.awara-hosp.jp/>

#### 交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より(約5km) 乗合タクシー [事前に登録が必要です]  
JR北陸本線「芦原温泉」駅より(約10km) 乗合タクシー [事前に登録が必要です]

※乗合タクシーを利用するためには事前に登録が必要です。

乗合タクシー(デマンド交通)は、お電話一本で、停留所から目的地の近くの停留所まで直接行けるシステムです。

《お問い合わせ先》あわら市役所 生活環境課 生活グループ 0776-73-8017